

□ 次の文章「I」と文章「II」を読んで、あとの問いに答えなさい。

文章「I」

本当の学びというのは、学校の授業や受験勉強などに限定されるものではありません。その意味で、人間の一生は、学びの連続であると言っているくらいです。何歳でも学ぶことができ、常に学びがあるからこそ、生きていて面白いと思えるのです。

①「発達」という言葉を、よく表面的な理解で

「とらえることがあります。けれども、人間は年を取ると、できないことも増えていきますよね。たとえば、記憶が曖昧になったり、運動機能が落ちていったり。先ほどのような発達のとらえ方をするとしたら、年を取ると後退していくから、発達は若いころに限定されたもの、ということになってしまいます。

学んだことによって、自分の中にある世界がさらに深まっていくとか、やってきたことの意味がまた違った角度でわかってくるとかいうことは、何歳になっても起こりません。そうやって、体や心が成長、進化していくことが本当の発達であって、発達は死ぬまで続くのです。

だから、別の見方をするならば、学びというのは、人間の発達をいろいろな角度で促す行為である、というふうにも言えます。

中学生や高校生のころの学びというと、学校や受験の勉強に結びつけて考えがちなだけけれども、それらを取っ払ったものと深いところにあるのが、本来の学びであり、人生を耕すため

に学ぶということでもありません。だから仮に、中高生のときに十分に学べなかったとしても、それで一生がダメになっただけというものは、原則ないのです。

何歳になったとしても、自分はまだ未熟だし、知らないことだらけだから、もっともっと学んでみたい。もっと自分の世界を豊かにしてみたい、と思う姿勢さえあれば、②学びは続いていくのです。そのことを、ぜひ若いうちに知っていてほしいのです。

「学び」には、三つの段階があると言われています。

最初の段階は、いろいろな知識に触れて、物の仕組みや歴史など、何かを知ること。これを「端緒知」と呼びます。

次に、端緒知をきっかけにして、それがなぜ起こったのだろうとか、どうしてこういう現象が起こるのだろう、などと自分なりの疑問や課題を持って、いろいろと調べたり、人と※ディスカッションしたり、記録して分析したりして、知識を深めていくことを、「実践知」と呼びます。「深め知」と言ってもいいでしょう。

A、第1章で源頼朝が鎌倉に幕府を立ち上げたけれども、どうして朝廷のあった京都から遠く離れたところに幕府を開いたのだろうか、という話をしましたね。この例でいうと、頼朝が鎌倉に幕府を立ち上げたという事実を知ることが「端緒知」で、どうして鎌倉だったのだろうかと疑問に思っただけで、考えたりしていくことが「実践知」ということになります。

B、それらがわかったことで、「歴史には興味がなかったけれど、なんだか歴史って面白そうだな」と歴史に対する見方が変わったなど、その人の人格形成になんらかの影響を与えるような学びに発展していく。それを「人格知」と呼びます。

このように、本当の学びというのは、「端緒知」「実践知」「人

格知」と三層になって深まっています。

僕は実際、どうして京都から遠く離れたところに幕府をつつたのだろうかと思議に思つて、東京に出てきたときに、鎌倉へ行って見たことがあります。そこは※切り通しになっていて、確かに攻め込みにくい場所でした。頼朝が攻め込みにくいところに幕府の拠点をつくつたというのはよくわかるのだけれども、朝廷を守るためじゃないな。だったら、幕府というのはいったい何なのか。幕府ができるということは、何を意味するのか。そんなことを考え、ずっと疑問に思っていました。

僕らが学生するときには、こういうことをちよつと調べようと思つても、本格的な歴史の本を買わないと調べられませんでした。C今は、インターネットである程度のことかわかつて、さらに調べたいとなつたら専門書を読もうというように、いろいろな選択肢があります。その点ではとても便利な時代になつたと思います。

それを生かして、学校で教えてくれることの中には、必ず「なんで？」という問いが隠れているはずだ、というふうに考えてみる、疑つてみる、調べてみる。学校で同じことをならつたとしても、単なる知識で終わってしまうのか、③人生を変えてくれるような深い学びとなるか、学ぶ側の意識次第で、それはまったく違ったものになると思うのです。

( 汐見稔幸 『人生を豊かにする学び方』 一部改変 )

※(文中のことばの意味)

ディスカッション … 話し合い・討論のこと。

切り通し … 山や丘を掘つたり削つたりして人馬が通行でき

きるようにした道やトンネル。

問1 AとCにあてはまることばとして、最もふさわ

しいものを次の中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ア そして                      イ つまり                      ウ たとえば  
エ でも                          オ そもそも

問2 線①「発達」について、次の(1)(2)に答え

なさい。

(1) 筆者は「発達」とは本来どのようなものだと述べていますか。文中から十五字でぬき出しなさい。句読点なども字数に数えます。

(2) 文中のには「発達」を表面的な理解でとらえた言葉が入ります。あてはまることばを十五字〜二十字で考えて答えなさい。

問3 線②「学びは続いていくのです」とありますが、

筆者は「学び」が続くことで、人生をどのように思えるか述べていますか。文中から八字でぬき出しなさい。

問4 線③「人生を変えてくれるような深い学び」とあ

りますか、これはどのような「学び」だと筆者は考えていますか。文中から二十一字でぬき出しなさい。

文章「II」

僕は一つの発見をしました。それは、たしかに、叔父さんから聞いた④ニュートンの話のおかげです。でも、僕が自分で、ある発見をしたなんていうと、みんなはひやかすにきまつています。だから、僕は、これを叔父さんにだけお話しすることにします。お母さんにも、自分のうち言わないでください。

僕は、こんどの発見に、「⑤人間分子の關係、網目の法則」という名をつけました。はじめ、「粉ミルクの秘密」という名を考えたんですが、なんだか少年雑誌の探偵小説みたいなので、やめにしました。叔父さんが、もっといい名を考えてくださったら、うれしく思います。

その発見をどう説明したらいいか、僕には、まだうまくいえないんですけど、考えていった順序をお話しすれば、叔父さんは、わかってくれるだろうと思います。

最初、頭に浮かんだのは粉ミルクでした。だから僕は、この話をしたら、きっとみんながひやかすだろうと思うんです。僕だって、もっと立派なものを考えたかったんですが、自然に粉ミルクが出てきてしまったんだから、仕方がありません。

月曜日の晩に、僕は夜中に目がさめました。なにか夢を見て目がさめたのですけれど、なんの夢だったか忘れしました。目がさめたら、どうしたんだか、僕は粉ミルクのかんのことを考えていました。うちで、おせんべいやビスケットを入れておく、あの※ラクトージェンの大きなかんです。

そうしたら、お母さんのいったことを思い出しました。僕が赤ん坊のとき、お母さんの乳がたりなかったの、僕は、毎日ラクトージェンを飲んで育ったのだと、いつかお母さんはいいました。今のラクトージェンのかんは、その時の記念だそうです。

僕は、その話を聞いたとき、じゃあ、オーストラリアの牛も僕のお母さんかな、と言いました。だって、ラクトージェンはオーストラリアでできて、かんにも、オーストラリアの地図がかいてあるからです。僕はそのことを床の中で思い出しました。そして、オーストラリアのことを、いろいろ想像しました。牧場や、牛や、粉ミルクの大工場や、港や、汽船や、そのほか、あとからあとから、いろんなものを考えました。

その時、僕はニュートンの話を思い出しました。三メートルか四メートルの高さから落ちたリンゴを、もつともつと高いところにあつたと考えてみて、どこまでも考えつめてゆくうちに、ニュートンはすばらしい考えを思いついたのだ、と叔父さんが言ったでしょう。

それで、僕も、粉ミルクに關係のあることを、どこまでも考えていったら、どうなるかな、と思いました。

僕は、寝床の中で、オーストラリアの牛から、僕の口に粉ミルクが入るまでのことを、順々に思ってみました。そうしたら、まるできりがなくて、あきれてしまいました。とても、たくさんの人間が出てくるんです。ためしに書いてみます。

(一) 粉ミルクが日本に来るまで。

牛、牛の世話をする人、乳をしぼる人、それを工場に運ぶ人、工場で粉ミルクにする人、かんにつめる人、かんを荷造りする人、それをトラックかなんかで鉄道にはこぶ人、汽車に積みこむ人、汽車を動かす人、汽車から港へ運ぶ人、汽船に積みこむ人、汽船を動かす人。

(二) 粉ミルクが日本に来てから。

汽船から荷をおろす人、それを倉庫にはこぶ人、倉庫の番人、

売りさばきの商人、広告をする人、小売りの薬屋、薬屋までか  
んを運ぶ人、薬屋の主人、小僧、この小僧がうちの台所までも  
つてきます。

僕は、粉ミルクが、オーストラリアから、赤ん坊の僕のとこ  
ろまで、とてもとても長いリレーをやってきたのだと思いまし  
た。工場や汽車や汽船を作った人までいれると、何千人だか、  
何万人だか知れない、たくさんの人が、僕につながっているん  
だと思いました。

でも、そのうち僕の知ってるのは、前のうちのそばにあった  
薬屋の主人だけで、あとはみんな僕の知らない人です。むこう  
だって、僕のことなんか、知らないにきまっています。僕は、  
⑥ 実にへんだと思いました。

それから僕は、床の中で、暗くしてある電灯や、時計や、机  
や、畳や、そのほか、部屋の中にあるものを、次から次と考え  
てみました。そうしたら、どれもみんな、ラクトーゲンと同じ  
でした。とても数えきれないほど大勢の人間が、うしろにぞろ  
ぞろとつながっているのです。でも、みんな、見ず知らずの人  
ばかりで、どんな顔をしてるんだか、見当はつきません。

その晩、まだほかに、なんだかいりる考えたのですが、そ  
のうち眠くなつて寝てしまったので、忘れてしまいました。し  
かし、今いったことだけは、翌日になつても覚えていました。

僕は、これは一つの発見だと思えます。だって、今まで、ち  
つとも考えなかったのに、そう思つて見ると、何から何まで、  
みんなそうだとわかつたからです。

僕は、学校に行く途中や、学校に行つてからも、なんでも手  
当たり次第、目にはいるものを取つて考えてみましたけれど、  
どれもこれも同じでした。そして、数え切れないほど大勢の人

とつながっているのは、僕だけじゃあないということを知りま  
した。

僕は、教室で先生の洋服や靴のことを、ていねいに細かく考  
えてみましたが、やっぱり同じだということを発見しました。  
先生の洋服は、オーストラリアの羊からはじまっていました。

だから、僕の考えでは、人間分子は、みんな、見たことも会  
つたこともない大勢の人と、知らないうちに網のようにつなが  
っているのだと思います。それで、僕はこれを「人間分子の関  
係、網目の法則」ということにしました。

僕は、いま、⑦ この発見をいろいろなものに応用して、まち  
がっていないことを、実地にためています。今日は、アスフ  
アルトの道がやっぱりそうだということに気がつきました。ま  
た、数学の時間に、先生の頭やひげも床屋につながっていると  
考えていたもんで、久しぶりで、先生から注意されました。  
しかし、発見のためには、先生から叱られることも我慢しな  
ければいけないと、僕は思っています。

（吉野源三郎 『君たちはどう生きるか』 一部改変）

※（文中のことばの意味）

ラクトーゲン …… ここでは粉ミルクの商品名のこと。

問5 ———線④「ニュートンの話」とありますが、ニュートンが新たな発見をするに至った、文章「I」でいう「端緒知」に当たるものはどのようなことですか。二十字以内で説明しなさい。句読点なども字数に数えます。

問6 ———線⑤「人間分子の関係、網目の法則」とは、どのような法則ですか。筆者の考えを「く」という法則」につながるように二十五字以内で説明しなさい。句読点なども字数に数えます。

問7 ———線⑥「実にへんだと思いました」とありますが、その理由として最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 顔も知らない人によって作られた粉ミルクを、何も知らずに飲み続けることは非常識なことだから。
- イ 身近にあるものが、実は遠い遠い国からやってきたものであると考えると意外なことだから。
- ウ 自分の知らないところで、自分の知らない人たちが関わっていることが不思議なことだから。
- エ 粉ミルクを作っている人々が、お客様ともいえる僕たちの顔も知らないのは失礼なことだから。

問8 ———線⑦「この発見をいろいろなものに応用して、まちがっていないことを、実地にためています」とありますが、これを読んだ太郎君はお父さんに質問をしました。次のa、b、cにふさわしいことを考えて答えなさい。ただし、aは熟語で、bは十字以内で答えなさい。

太郎 「実地にためています」ってどういうこと？

父 実際にためてみることさ。実験とも言えるかな。

太郎 実験なら大好き。

父 でも、まずは、ものごとをよくaしないと実験はできないんだよ。

太郎 なんで？

父 よくaしないと、疑問が生まれてこないからさ。疑問が出てきたら、次はbを立ててみることにして、そのbが正しいかどうかを実験してみよう。

太郎 なるほど、そうか。実験は、疑問に思ったことをきっかけにして、自分でいろいろと考えてみてから行うものなんだね。

父 ところで、本庶<sup>ほんじよ</sup>佑<sup>たすく</sup>先生が、昨年ノーベル生理学・医学賞を受賞された時、「教科書に書いてあることを信じない」とおっしゃっていたの知ってる？

太郎 うん。でもあれは教科書を否定しておっしゃっているのではなく、「c」というメッセージなんだよね。このことは、新たな発見をするために大切なことなんだと思う。

父 そうだね。

問9 あなたは文章「I」と文章「II」で読み取ったものをも

って、これからどのように学んでいこうと思いますか。あなたの考えを、次の条件を満たした文章で書きなさい。

条件 ・ 百八十字～二百字で書くこと。

・ 二段落構成で書くこと。

・ 一段落目には、文章「I」と文章「II」から読み取った、学びに対して大切なものについて書くこと。

・ 二段落目には、文章「I」の内容を受けて、あなたが、どのように学んでいきたいかを書くこと。

これで問題は終わります。